

総合研究棟<土魂商才館>

経済学部教授 筒井正夫



外観

平成26年5月、彦根キャンパスの中央に位置する中庭部分に、総床面積1960㎡、コンクリート3階建ての総合研究棟<土魂商才館>が竣工しました。この建物には、経済経営研究所とリスク研究センターが移転するとともに、図書館書庫や史料館の収蔵庫また大・中・小のセミナー室やしがだいで資料展示コーナーが設けられ、内外の貴重な史資料の収集・保管をはかるとともにそれらを用いた総合的な教育・研究を推し進め、さらには大学の理念や歴史、研究教育の成果等を発信する、地域に根差した知



開館式典の様子



玄関

の拠点として誕生いたしました。そうした建設の主旨から、この建物は、彦根高等商業学校の建学の精神にちなんで総合研究棟<土魂商才館>と名付けられました。

竣工後、内部の整備が整うにつれて利用されてまいりましたが、12月5日には開館式典が行われ、いよいよ本格的に利用に供されることとなりました。

1階部分には、経済・経営に関する史資料の収集と『彦根論叢』などの学術雑誌の発行、講演会やワークショップの企画運営を行っている経済経営研究所と、アジア地域を中心に国際的な共同研究を組織したり、各分野のリスク研究を総合的に進めているリスク研究センターが入りました。

奥には、集密書架を中心とした幾層もの書架が設置され、次のような特徴ある史資料が配架されました。

①近現代における滋賀県の諸産業や地域社会・行財政・統計等に関する様々な資料が配架されています。そのほか明治期に湖北・伊香郡で設立され今の江北図書館へと引き継がれてきた貴重な和洋の書籍や史資料が寄託されています。

②社史・団体史資料、営業報告書・有価証券報告書・実業家伝記等、企業経営に関する基礎資料。特に近江商人系の企業に関する資料は心がけて収集しています。

③旧植民地地域を中心としたアジア関連資料。特に戦前期の朝鮮・満洲・台湾地域に関する貴重な史資料群が一処に会することとなりました。

④戦前・戦後の経済・経営に関する基礎文献・各種調査報告書。各産業の実態を調査した報告書や各地の商工会議所や同業組合関係資料、農会や産業組合といった農業関連団体資料なども収集しています。さらにこれら書架と間仕切りなく繋がった広い閲覧室が設けられました。

これらの図書や史資料は、貴重図書・資料を除いて原則として開架とし、学生や研究者が自由に手にとって閲覧できるように致しました。今後いっそう、文献検索やデジタルアーカイブの充実などインターネットからの利用促進にも力を入れていきたいと存じます。

閲覧室の隣には、会議室兼研究室が設けられ、経済経営研究所やリスク研究センター等が主催する様々な研究会やセミナー、所蔵資料を用いた勉強会、種々の会議等に活用することができます。



しがだいで資料展示コーナー

さらに、1階には、「しがだいで資料展示コーナー」が設けられ、主として旧彦根高等商業学校以来の滋賀大学の歩みや当館に係る本学の活動を顕彰できる史資料を展示し、学生や来学者に本学の歴史と研究・教育の姿勢を学びとることができる空間としたいと存じます。また、当館に収納されている貴重史資料等を展示紹介する試みも随時行ってきたいと思います。



セミナー室 I

次に、2階部分には、伊藤忠商事など近江商人系企業の貴重資料を中心とした史料館の収蔵庫と滋賀県関係その他の貴重資料を納める経済経営研究所の収蔵庫が設置されています。史料館とは渡り廊下で繋がっており、史料の搬入出のための利便性が図られています。

3階には図書館書庫とともに、大・中・小のセミナー室が設けられ、学生や教員による学習・教育・講演・セミナー等のための多機能的な空間として活用できるように工夫されています。大セミナー室(セミナー室 I)には階段状の収納式座席のほか、優れた音響・映像装置も備えられています。また広々としたラウンジの窓からは彦根城が一望でき、学生や研究者が集える憩いの空間として活用していただきたいと思います。

このように総合研究棟<土魂商才館>は、図書館・史料館・経済経営研究所・リスク研究センターが連携・協力して、貴重な史資料や図書を集中的に配架・収蔵し、それらを用いた研究・教育のための新たな知の拠点として、今後の滋賀大学の発展に寄与することが大いに期待されています。



ラウンジから望む天守閣